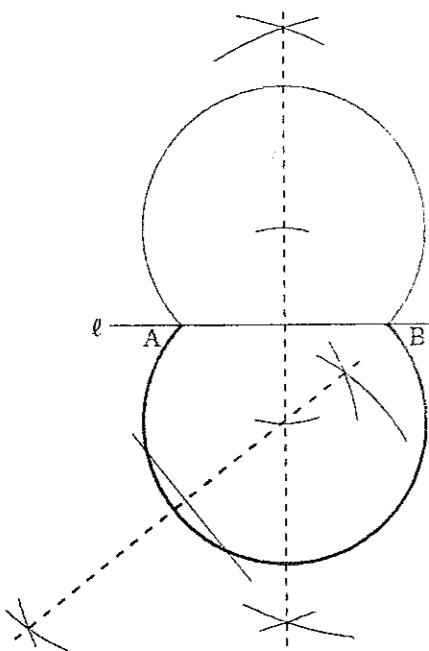


数 学

1		点
[問 1]	$5 + \sqrt{3}$	5
[問 2]	$\frac{-1 \pm \sqrt{17}}{2}$	5
[問 3]	$\frac{5}{16}$	5
[問 4]	$10\sqrt{5}$ cm	5
[問 5] 解答例		5



※ ■の欄には、記入しないこと

小計 1	小計 2	小計 3	小計 4

2		点
[問 1]	$y = -\frac{2}{3}x + \frac{1}{3}$	7
[問 2] 解答例	【途中の式や計算など】	10

点A、点B、点Cの座標を  $a$  と  $t$  を用いて表すと、

$$A(2t, 4at^2), B(-t, at^2), C(2t, -t^2)$$

辺ACの中点をDとすると、 $AC \parallel y$  軸 より、

$D(2t, d)$  と表せる。  $AD=DC$  より、

$$4at^2 - d = d - (-t^2)$$

$$d = \frac{4a-1}{2}t^2$$

よって、  $D\left(2t, \frac{4a-1}{2}t^2\right)$

$BD \parallel x$  軸より、点Bと点Dの  $y$  座標は等しいから、

$$at^2 = \frac{4a-1}{2}t^2$$

$$t^2 \times \frac{-2a+1}{2} = 0$$

$$t^2 \neq 0 \text{ より, } \frac{-2a+1}{2} = 0$$

$$\text{よって, } a = \frac{1}{2}$$

したがって、  $A(2t, 2t^2), B\left(-t, \frac{1}{2}t^2\right), D\left(2t, \frac{1}{2}t^2\right)$

$\triangle ABD$  は  $\angle BDA = 90^\circ$  の直角二等辺三角形であるから、

$$BD = AD \text{ より, } 2t - (-t) = 2t^2 - \frac{1}{2}t^2$$

$$\text{整理して, } t(t-2) = 0$$

$$\text{よって, } t=0, 2$$

$$t > 0 \text{ より, } t=2$$

(答え)  $t=2$

[問 3]	$a = \frac{3}{7}$	8
-------	-------------------	---

3		点
[問 1]	27	度 7
[問 2] 解答例	(1)	【証明】 10

$\triangle OCB$  と  $\triangle ABF$  において、

直線BCは円Oの接線であるから、

$$\angle CBO = 90^\circ$$

線分ABは円Oの直径であるから、

$$\angle BFA = 90^\circ$$

よって、  $\angle CBO = \angle BFA \dots \textcircled{1}$

また、  $\widehat{BD} = \widehat{DE}$  より、

$$\angle BOC = \angle BOD = \frac{1}{2}\angle BOE \dots \textcircled{2}$$

円周角の定理より、

$$\angle BFE = \frac{1}{2}\angle BOE \dots \textcircled{3}$$

②, ③より、

$$\angle BOC = \angle BFE \dots \textcircled{4}$$

線分ABと線分EFの交点をGとすると、

$EF \parallel CB, \angle CBO = 90^\circ$  より、  $\angle BGF = 90^\circ$

$\triangle OCB$  と  $\triangle FBG$  において、

$$\angle OCB = 90^\circ, \angle BOG \dots \textcircled{5}$$

$$\angle FBG = 90^\circ, \angle BFG = 90^\circ - \angle BFE \dots \textcircled{6}$$

④, ⑤, ⑥より、

$$\angle OCB = \angle FBG = \angle ABF \dots \textcircled{7}$$

①, ⑦より、2組の角がそれぞれ等しいから

$$\triangle OCB \sim \triangle ABF$$

[問 2]	(2)	6 cm 8
-------	-----	--------

4		点
[問 1]	6 通り	7
[問 2] 解答例	(1)	【説明】 10

自然数  $n$  の十の位の数を  $d$ 、一の位の数を  $e$  とすると、  
 $d$  と  $e$  はともに 1 以上 9 以下の自然数であり、

$$n = 10d + e \text{ と表せるので、}$$

$$m = 100 - n = 100 - (10d + e)$$

$$= 90 - 10d + 10 - e = 10(9-d) + (10-e)$$

したがって、 $9-d$  は 0 以上 8 以下の自然数、

$10-e$  は 1 以上 9 以下の自然数であるから、

次の(i), (ii)の場合について考える。

(i)  $d$  が 9 のとき

$m$  は 1 衡の数であり、 $b = m = 10 - e$

また、 $a = 9 + e$  であるから、

$$c = a + b = (9 + e) + (10 - e) = 19$$

(ii)  $d$  が 9 でないとき

$m$  は 2 衡の数であり、十の位の数は  $9-d$

一の位の数は  $10-e$  である。

$$\text{ゆえに, } b = (9-d) + (10 - e) = 19 - d - e$$

また、 $a = d + e$  であるから、

$$c = a + b = (d + e) + (19 - d - e) = 19$$

よって、(i), (ii)より、

手順でできる数  $c$  は、つねに一定の数 19 になる。

[問 2]	(2)	112, 121, 211 8
-------	-----	-----------------